

わたしたちの学びを支える環境。 レジリエンスと居場所感に注目して

開会あいさつ

福知山公立大学 学長 川添 信介

来賓あいさつ

福知山市教育委員会 教育長 廣田 康男
東京大学大学院教育学研究科長 勝野 正章
(ビデオメッセージ)

第一部 14:10~14:50

日本の学びを支える
レジリエンス～
最新のPISA
調査結果からわかること

国立教育政策研究所
国際研究・協力部長

大野 彰子



休憩

第二部 15:00~16:40

教師の学びを支えるために～
同じ目線で語り合い
学び合う“場所”の必要性

東京大学大学院
教育学研究科
臨床心理学コース 教授

能智 正博



パネルディスカッション

国立教育政策研究所
国際研究・協力部長

大野 彰子

帝京大学 文学研究科
臨床心理学専攻 准教授

角南 なおみ

文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部
施設企画課 係長

宮本 翔帆

福知山公立大学 准教授 兼 北近畿地域連携機構
学校組織レジリエンス・ユニット長

福嶋 真治

モデレーター： 能智 正博

講評 16:40~16:50

内閣府総合科学技術・イノベーション会議
戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
第3期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する
プラットフォームの構築」
サブ・プログラムディレクター

大山 潤爾

閉会あいさつ

福知山公立大学
理事・副学長・北近畿地域連携機構長

西田 豊明

福知山公立大学
副学長・地域経営学部 学部長

倉田 良樹

2024.

3.24日

参加無料

14:00~17:00 (最長17時30分)

会場

オンライン開催あり



福知山公立大学

The University of Fukuchiyama

主催 | 福知山公立大学

共催

福知山公立大学 北近畿地域連携機構(キターレ)・
東京大学大学院教育学研究科 能智正博研究室
「語り合い学び合う特別支援教育スキリング・プロジェクト」

後援

福知山市 福知山市教育委員会
京都府教育委員会
国立研究開発法人 科学技術振興機構

本シンポジウムは、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
第3期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」
JPJ012347(研究推進法人:JST)の支援を受けて、実施されるものです。

お問い合わせ・お申し込み

東京大学大学院教育学研究科 能智正博研究室
「語り合い学び合う特別支援教育スキリング・プロジェクト」事務局
<http://nochilab.p.u-tokyo.ac.jp>



企画趣旨

子どもや教師の学びを支える 物的・質的な環境の重要性について学びを深める

昨年12月5日、OECDはPISA2022の結果について、日本は3分野(読解力・数学的リテラシー、科学的リテラシー)得点が世界トップクラスであったことを発表しました。OECDは日本のこの結果を支えた要因として、「レジリエンス(回復力)」に着目し、日本を「レジリエントな国」と説明しています。この「レジリエントな国」には3側面あるとされ、そのうちのひとつに「生徒の学校への所属感」指標に基づく「教育におけるウェルビーイングに関するレジリエンス」があります。日本はこの指標が高かった国の一つでもあったことから、学びを支える側面としての「所属感」や「レジリエンス」がいま注目を集めています。もちろん、テスト得点が高かったことは、生徒や教師の頑張りによるものであることは衆目の一致するところではありますが、同時にコロナ禍の環境下にあった生徒や教師の学びを支えたものにも注目することで、今後の教育のサステナビリティ(持続可能性)に関する知見を得ることにもなるでしょう。以上の状況を踏まえ、福知山公立大学 北近畿地域連携機構では、学校組織レジリエンス・ユニットの発足記念シンポジウムを開催させていただくことになりました。当日のシンポジウムでは、「レジリエンス」や所属感をもう少し大きい概念で捉えた「居場所感」、「教師の学びのあり方」やそれらを具体的に支える「学校施設」にも言及できる、第一線で活躍する教育行政職・研究職の皆様にご登壇いただき、子どもや教師の学びを支える物的・質的な環境の重要性について学びを深める機会をご提供したいと考えております。なお、当日はオンライン配信も行い、福知山市以外でもご視聴いただけるようにする予定です。



SPEAKER PROFILE 01.

国立教育政策研究所
国際研究・協力部長

大野 彰子 (おおの・あきこ)



1994年文部省(現文部科学省)入省。米国留学(コロンビア大学大学院)、岡山県教育庁生涯学習課長、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐、OECD(経済協力開発機構)教育局アナリスト、カンボジア教育省教育計画アドバイザー(JICA専門家)、文化庁長官官房国際課長、同文化財第二課長、文部科学省大臣官房総務課広報室長、同総合教育政策局調査企画課長、等を経て、2022年4月より現職(教育データサイエンスセンター長兼任)。OECD-PISA国内総括責任者。2022年11月よりOECD教育政策委員会及びPISA運営理事会の日本代表、副議長も務める。

SPEAKER PROFILE 02.

東京大学大学院教育学研究科
臨床心理学コース 教授

能智 正博 (のうち・まさひろ)



1985年、東京大学文学部心理学科卒業。1987年、同大学院人文科学研究科心理学専攻修士課程を修了し、1992年米国シラキュース大学大学院教育学研究科にて博士課程修了(Ph.D.)。帰国後、帝京大学講師、東京女子大学助教授、東京大学大学院助教授・准教授を経て、2010年より現職。以後、同附属教育心理相談室スーパーバイザーも兼任し、2021~22年に相談室長、また、2016~17年同附属学校教育高度化・効果検証センター長。公認心理士・臨床心理士。近書に、『ソーシャルコンストラクショニズムと対人支援の心理学』(新曜社、2021、新曜社、共編)、『協働するカウンセリングと心理療法』(D. パレ著、新曜社、2021、監訳)がある。



福知山公立大学 北近畿地域連携機構 学校組織レジリエンス・ユニット発足の経緯

内閣府総合科学技術・イノベーション会議の 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 研究拠点として、アウトカム生成に寄与するために

福知山公立大学は昨年8月、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における、東京大学大学院教育学研究科能智正博教授研究チームのフィールドワーク研究拠点に指定されました。能智教授からの研究拠点指定を受け、福知山公立大学では、北近畿地域の発展に寄与することを目的とした学内機構、北近畿地域連携機構(キターレ)に、プロジェクトのための「学校組織レジリエンス・ユニット」を発足させ、全学体制で研究をバックアップする体制を整えました。

